

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	葛飾区子ども発達センター水元分室			
○保護者評価実施期間	R7年 11月 1日		～	R7年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53	(回答者数)	37
○従業者評価実施期間	R7年 11月 1日		～	R7年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月6日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	複数の職種（保育士、心理士、言語聴覚士）がチームとなって多面的にお子さんの発達を支えている。	活動案や活動の振り返りなど、様々な場面で職員間で意見を出し合えるように、時間を工夫したり雰囲気作りを大事にしたりしている。	目的を持った会議の開催を設定し、支援に対して共通認識を持って支援にあたれるように工夫をしていく。
2	施設が狭く、多くの部屋を確保出来ないため、施設外での療育を実施したり、室内を少しでも広く使えるように創意工夫を行っている	バスを利用して公園などに遠足で出かけ、身体を積極的に動かす療育を行ったり、室内での整理整頓を徹底し、部屋を少しでも広く使えるようにしている	年に3回程度の遠足を実施しているが、バスでは無く徒歩での移動など近隣の公園でも良いので、外出する回数を増やしていく
3	言葉では情報伝達が難しいお子さんに対して、集団行動などに支障が出ないように少しでも情報が伝達でき理解できる方法を工夫している。	顔写真付きのカードや個人別のマーク、活動の内容などを絵や図などを活用して説明し、情報を理解できるようにしている。	特性を理解し、さらに情報を伝達する方法を考え、理解できる機会が増えるように、さらなる工夫を行っていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会が少ない	部屋数に限りがあり保護者同士の交流のために場所を確保することは困難な状況ではあるが、見学の際などに少しでも交流ができるように配慮は心がけている。	部屋の確保に努力し、保護者同士が交流できるような場の提供や家族で参加できる研修会などの開催を検討する。
2	部屋が狭い。部屋数が少ない。	元学童を使用しているが、そもそも少ない部屋をさらにパーティションなどで仕切って部屋数を増やして対応している。	少しでも部屋を広く使えるように、整理整頓を徹底している。
3			